

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-35707

(P2010-35707A)

(43) 公開日 平成22年2月18日(2010.2.18)

(51) Int.Cl.
A45C 13/30 (2006.01)F I
A45C 13/30テーマコード (参考)
3B045

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2008-199963 (P2008-199963)
(22) 出願日 平成20年8月1日(2008.8.1)(71) 出願人 391043756
株式会社セイバン
兵庫県たつの市御津町室津836番地の1
(71) 出願人 000142746
株式会社ケントク
大阪府大阪市生野区巽西3丁目10番26号
(74) 代理人 100072213
弁理士 辻本 一義
(74) 代理人 100119725
弁理士 辻本 希世士
(74) 代理人 100129975
弁理士 上野 康成

最終頁に続く

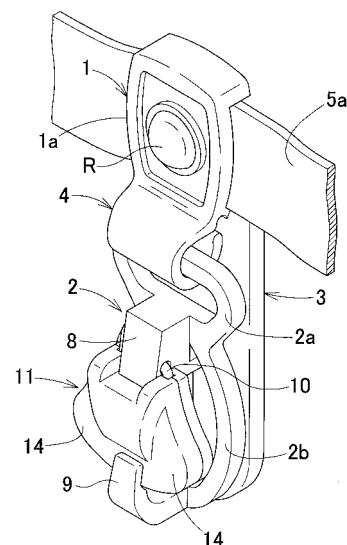
(54) 【発明の名称】 小物吊り下げ具

(57) 【要約】

【課題】袋のひもを掛ける場合や外す場合に、学童に限らず大人においても、従来と同様に簡単に操作ができ、しかも指などに怪我をすることない小物吊り下げ具を提供する。

【解決手段】なす環2に基端を固着したばね材10の先端側に操作部材11を取り付け、この操作部材11の先端をなす環2の鉤部9の先端内面に圧接するようにし、前記操作部材11を丸みを帯びた指当て部14を両側部に有したものとし、これら指当て部14を前記鉤部9の左右に食い出すようにしたものである。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

なす環（２）に基端を固着したばね材（１０）の先端側に操作部材（１１）を取り付け、この操作部材（１１）の先端をなす環（２）の鉤部（９）の先端内面に圧接するようにし、前記操作部材（１１）を丸みを帯びた指当て部（１４）を両側部に有したものとし、これら指当て部（１４）を前記鉤部（９）の左右に食み出すようにしたことを特徴とする小物吊り下げ具。

【請求項 2】

前記指当て部（１４）を鉤部（９）の左右にそれぞれ５～１０ｍｍ食み出すようにしたことを特徴とする請求項１記載の小物吊り下げ具。

10

【請求項 3】

前記操作部材（１１）を、合成樹脂製の表板体（１１ａ）と合成樹脂製の裏板体（１１ｂ）とからなるものとし、表板体（１１ａ）には、ばね材（１０）の嵌合溝（１５ａ）と、裏板体（１１ｂ）との嵌合穴（１６ａ）が設けられ、裏板体（１１ｂ）には、ばね材（１０）の嵌合溝（１５ｂ）と、表板体（１１ａ）との嵌合突起（１６ｂ）が設けられたものとし、表板体（１１ａ）と裏板体（１１ｂ）とを重ね合わせることにより、ばね材（１０）が両嵌合溝（１５ａ、１５ｂ）の間に嵌合されて、操作部材（１１）に固着されると共に、嵌合穴（１６ａ）に嵌合突起（１６ｂ）が嵌合して、表板体（１１ａ）と裏板体（１１ｂ）とが固着されるようにしたことを特徴とする請求項１記載の小物吊り下げ具。

【請求項 4】

20

前記操作部材（１１）を、上面に形成した開口から下に向かって差込み穴（１７）を設けた合成樹脂製の被覆体とし、この差込み穴（１７）にばね材（１０）の先端を差し込むことにより、このばね材（１０）が操作部材（１１）に固着されるようにしたことを特徴とする請求項１記載の小物吊り下げ具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【０００１】**

30

この発明は、ランドセルやリュックサック等の背負い鞆、学生鞆やビジネスバッグ等のショルダーバッグ、その他各種の鞆などに用いられる小物吊り下げ具に関するものである。

【背景技術】**【０００２】**

40

従来、この種の小物吊り下げ具としては、図８に示したようなランドセル用などの袋掛けが存在する。この袋掛けは、鉤状のフック本体２１と、その上端の支持部２２に連結される押え部材２３および吊り金具２４とからなるものとしている。フック本体２１は、ランドセルの側面などに沿って配置される板状の背面部２５と、その背面部２５の下端より前方へ延び、さらに上方に湾曲する引っ掛け部２６と、背面部２５の上端に前方に突出するように設けられる支持部２２とから構成されている。そして、フック本体２１の引っ掛け部２６の先端部２７に、内側に向かって下がるように傾斜する傾斜面２８を設け、その傾斜面２８の下部に、押え部材２３の先端部２９が内側から当接する顎部３０を設けることにより、その傾斜面２８と押え部材２３の先端近辺との間に、ひもを案内するＶ溝３１を形成している（特許文献１）。

【０００３】

このような小物吊り下げ具では、袋のひもを掛ける場合には、図９に示したように、ひも３２をそのＶ溝３１に引っ掛け、そのまま下側に引っ張ると、押え部材２３は自然に開き、ひも３２はそのままフック本体２１の内部に入り込むとしている。次に、袋のひもを外す場合には、図１０に示したように、輪のようになっているひも３２の先端を横方向に

50

ずらし、フック本体 2 1 の外側のひも 3 2 の部分を前述と同様にしてフック本体 2 1 に引っ掛け、そのまま横方向に引き出せばよいとしている。また、袋のひもを外す場合には、従来と同様に、押え部材 2 3 を指などで押し込み、フック本体 2 1 の顎部 2 9 との間に隙間を開け、その隙間にひも 3 2 を通して、ひも 3 2 を引き抜くこともできるとしている。

【特許文献 1】特開平 9 - 5 1 8 4 5 号公報（図 1、図 3、図 5）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記従来の小物吊り下げ具では、袋のひもを掛ける場合や外す場合の操作は、大人にとってはそれほど難しくはないが、ランドセルの袋掛けとして使用する場合には、学童にとっては難しいという問題点を有してした。

10

【0005】

上記従来の小物吊り下げ具において、学童にとっては袋のひもを掛ける場合や外す場合には、押え部材 2 3 を指などで押し込み、フック本体 2 1 の顎部 3 0 との間に隙間を開け、その隙間にひも 3 2 を通したり、その隙間からひも 3 2 を引き抜くのが簡単であり、一般的であるので、学童に限らず大人においても、このような操作を行ってしまう場合がある。

【0006】

ところが、このような場合、上記従来の小物吊り下げ具では、ひも 3 2 を案内する V 溝 3 1 を形成しているため、フック本体 2 1 の引っ掛け部 2 6 の先端部 2 7 は尖っており、押え部材 2 3 を指などで押し込む場合に、その引っ掛け部 2 6 の先端部 2 7 で指に怪我をしてしまうという問題点がある。

20

【0007】

また、上記従来の小物吊り下げ具では、押え部材 2 3 は、弾力を有する金属線や金属板で作成されており、その金属部が露出しているため、この押え部材 2 3 を指などで押し込む場合に、その押え部材 2 3 自体によって指に怪我をしてしまうという問題点がある。

【0008】

さらに、上記従来の小物吊り下げ具では、押え部材 2 3 の幅がフック本体 2 1 の顎部 3 0 の幅よりも少し広くしているだけであるので、この押え部材 2 3 を指などで押し込む場合に、その押え部材 2 3 が操作し難く、押え部材 2 3 と顎部 3 0 の間に指を挟んで、怪我をしてしまうという問題点がある。

30

【0009】

そこで、この発明は、上記従来の問題点を解決するものであり、袋のひもを掛ける場合や外す場合に、学童に限らず大人においても、従来と同様に簡単に操作ができ、しかも指などに怪我をすることがない小物吊り下げ具を提供することを目的としてなされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

この発明の小物吊り下げ具は、なす環 2 に基端を固着したばね材 1 0 の先端側に操作部材 1 1 を取り付け、この操作部材 1 1 の先端をなす環 2 の鉤部 9 の先端内面に圧接するようにし、前記操作部材 1 1 を丸みを帯びた指当て部 1 4 を両側部に有したものとし、これら指当て部 1 4 を前記鉤部 9 の左右に食み出すようにしたものとしている。

40

【0011】

そして、この発明の小物吊り下げ具は、前記指当て部 1 4 を鉤部 9 の左右にそれぞれ 5 ~ 10 mm 食み出すようにしたものとしている。

【0012】

さらに、この発明の小物吊り下げ具は、前記操作部材 1 1 を、合成樹脂製の表板体 1 1 a と合成樹脂製の裏板体 1 1 b とからなるものとし、表板体 1 1 a には、ばね材 1 0 の嵌合溝 1 5 a と、裏板体 1 1 b との嵌合穴 1 6 a が設けられ、裏板体 1 1 b には、ばね材 1 0 の嵌合溝 1 5 b と、表板体 1 1 a との嵌合突起 1 6 b が設けられたものとし、表板体 1

50

１ a と裏板体 １ １ b とを重ね合わせるにより、ばね材 １ ０ が両嵌合溝 １ ５ a 、 １ ５ b の間に嵌合されて、操作部材 １ １ に固着されると共に、嵌合穴 １ ６ a に嵌合突起 １ ６ b が嵌合して、表板体 １ １ a と裏板体 １ １ b とが固着されるようにしている。

【 ０ ０ １ ３ 】

また、この発明の小物吊り下げ具は、前記操作部材 １ １ を、上面に形成した開口から下に向かって差込み穴 １ ７ を設けた合成樹脂製の被覆体とし、この差込み穴 １ ７ にばね材 １ ０ の先端を差し込むことにより、このばね材 １ ０ が操作部材 １ １ に固着されるようにしている。

【 発明の効果 】

【 ０ ０ １ ４ 】

この発明の小物吊り下げ具は、以上に述べたように構成されているので、袋のひもを掛ける場合や外す場合に、学童に限らず大人においても、従来と同様に簡単に操作ができ、しかも指などに怪我をすることがないものとなり、非常に扱い易いものとなった。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 ０ ０ １ ５ 】

以下、この発明の小物吊り下げ具を実施するための最良の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。

【 ０ ０ １ ６ 】

この発明の小物吊り下げ具は、ランドセルなどの鞆 B への固着部 １ と、なす環 ２ と、なす環 ２ の鞆 B への接触を防ぐための当接板 ３ と、なす環 ２ の上部を回動自在に保持する保持部 ４ とを備えている。

【 ０ ０ １ ７ 】

固着部 １ は、断面形状を略コ字状とした表当板 １ a と、前記当接板 ３ の上部に突設した裏当板 １ b で囲まれた部分に空間 S を形成している。そして、この空間 S にランドセルなどの鞆 B のマチ部 ５ に設けたマチベルト ５ a を挿入し、表当板 １ a に設けたリベット孔 ６ から裏当板 １ b に設けたリベット孔 ７ にリベット R を貫通させて、このマチベルト ５ a にリベット止めして、固着するようにしている。

【 ０ ０ １ ８ 】

なす環 ２ は、金属ダイカストなどの金属製としており、横長の丸形状とした上リング体 ２ a と縦長の丸形状とした下リング体 ２ b とを連結したものとし、その連結部に突起 ８ を設け、この突起 ８ と対向する位置の下リング体 ２ b の下部に鉤部 ９ を設けている。そして、前記突起 ８ に縦長の長方形形状としたばね材 １ ０ の基端を固着し、このばね材 １ ０ の先端側に操作部材 １ １ を取り付け、この操作部材 １ １ の先端を前記鉤部 ９ の先端内面に圧接するようにしている。なお、下リング体 ２ b には、この下リング体 ２ b を左右に二等分するように補強棒 １ ２ を設けたものとしている。

【 ０ ０ １ ９ 】

当接板 ３ は、下端が丸みを帯びた縦長の長方形形状とし、前記なす環 ２ の外形より大きく形成している。

【 ０ ０ ２ ０ 】

保持部 ４ は、鉤状に曲げ加工して弾性を有するものとしており、取付空間 ４ a を設けると共に、当接板 ３ 側に開口 ４ b を設け、当接板 ３ との間にはなす環 ２ の上リング体 ２ a を通すための隙間 １ ３ を形成している。この隙間 １ ３ は、上リング体 ２ a の厚さより狭くしたものである。

【 ０ ０ ２ １ 】

そして、この発明の小物吊り下げ具において、前記ばね材 １ ０ は、図示したように金属鋼線を縦長の長方形形状に折り曲げたものとしたり、図示していないが金属鋼板を長方形形状にしたものなどとする事ができる。

【 ０ ０ ２ ２ 】

操作部材 １ １ は、丸みを帯びた指当て部 １ ４ を両側部に有している。この指当て部 １ ４ は、前記鉤部 ９ の左右に、少なくともそれぞれ 3 mm 程度、好ましくはそれぞれ 5 ~ 10

10

20

30

40

50

mm程度、食み出すようにしている。なお、前記指当て部14が鉤部9の左右に、それぞれ15mm以上、食み出すようにすると、邪魔になったりするので、好ましくない。

【0023】

図1～4示した操作部材11は、合成樹脂製の表板体11aと合成樹脂製の裏板体11bとからなる。

【0024】

表板体11aには、ばね材10の嵌合溝15aと、裏板体11bとの嵌合穴16aが設けられている。嵌合溝15aは、図示したものでは略U字状溝としているが、ばね材10の外形に対応した各形状の溝とすることができる。嵌合穴16aは、図示したものでは、四角形状の穴を縦方向に2個形成したものであるとしているが、形状や個数は任意のものとする
10

【0025】

裏板体11bには、ばね材10の嵌合溝15bと、表板体11aとの嵌合突起16bが設けられている。嵌合溝15bは、嵌合溝15aと同様のものにすることができ、また嵌合穴16aも、嵌合突起16bに対応した任意のものとする
20

【0026】

したがって、表板体11aと裏板体11bとを重ね合わせれば、ばね材10は両嵌合溝15a、15bの間に嵌合されて、このばね材10が操作部材11に固着されると共に、嵌合穴16aに嵌合突起16bが嵌合して、表板体11aと裏板体11bとが固着される。このようにすることにより、操作部材11は、ばね材10に非常に簡単に取り付けると共に、この操作部材11によって、ばね材10の大半を簡単に被覆して安全性と外観を良くすることができる。
20

【0027】

図5、6に示した操作部材11は、上面に形成した開口から下に向かって差込み穴17を設けた合成樹脂製の被覆体としている。

【0028】

差込み穴17は、ばね材10の外形に対応した各形状の穴とすることができる。図示したものでは、開口を横長の四角形状とし、ばね材10の下半部が入り込む深さとしているが、穴の形状や深さは任意のものとする
30

【0029】

そして、操作部材11の差込み穴17にばね材10の先端を確りと差し込むことにより、このばね材10が操作部材11に固着されるようにしている。なお、差込み穴17の前側には、上方遮断部17aが設けられ、ばね材10の上部を覆い隠すようにしている。このようにすることにより、操作部材11は、ばね材10に非常に簡単に取り付けると共に、操作部材11によって、ばね材10の大半を簡単に被覆して安全性と外観を良くすることができる。
30

【0030】

このように構成されたこの発明の小物吊り下げ具は、図7に示したように、ランドセルなどの鞆Bのマチ部5に取り付けられ、次のようにして使用される。

【0031】

まず、学童などの使用者が給食袋などの小物を吊り下げる場合には、操作部材11の両側部の指当て部14の何れかを片方の手の指先で押圧して、この操作部材11と鉤部9との間に隙間を開け、その隙間に、もう片方の手で持った給食袋などのひもを通せば良い。
40

【0032】

次に、吊り下げた給食袋などの小物を外す場合には、吊り下げる場合と同様に、操作部材11の両側部の指当て部14の何れかを片方の手の指先で押圧して、この操作部材11と鉤部9との間に隙間を開け、その隙間から、もう片方の手で持った給食袋などのひもを引き抜けば良い。

【0033】

この発明の小物吊り下げ具では、このような操作を行っても、操作部材11の指当て部
50

１４は、鉤部９の左右に食い出しているので、片手の指先で簡単に押圧操作することができ、またその指先が鉤部９に当たることもないので、怪我をすることもない。

【図面の簡単な説明】

【００３４】

【図１】この発明の小物吊り下げ具の一実施形態を示す斜視図である。

【図２】図１に示すこの発明の小物吊り下げ具の縦断面図である。

【図３】図１に示すこの発明の小物吊り下げ具の分解斜視図である。

【図４】図１に示すこの発明の小物吊り下げ具の操作部材の分解斜視図である。

【図５】この発明の小物吊り下げ具の他の実施形態を示す斜視図である。

【図６】図５に示すこの発明の小物吊り下げ具の操作部材の斜視図である。

10

【図７】この発明の小物吊り下げ具をランドセルのマチ部に取り付けた状態を示す説明図である。

【図８】従来の小物吊り下げ具の一例を示す斜視図である。

【図９】図８に示す従来の小物吊り下げ具にひもを掛ける手順を示す側面図である。

【図１０】図８に示す従来の小物吊り下げ具からひもを取り外す手順を示す正面図である。

。

【符号の説明】

【００３５】

２ なす環

９ 鉤部

20

１０ ばね材

１１ 操作部材

１１ａ 表板体

１１ｂ 裏板体

１４ 指当て部

１５ａ 嵌合溝

１５ｂ 嵌合溝

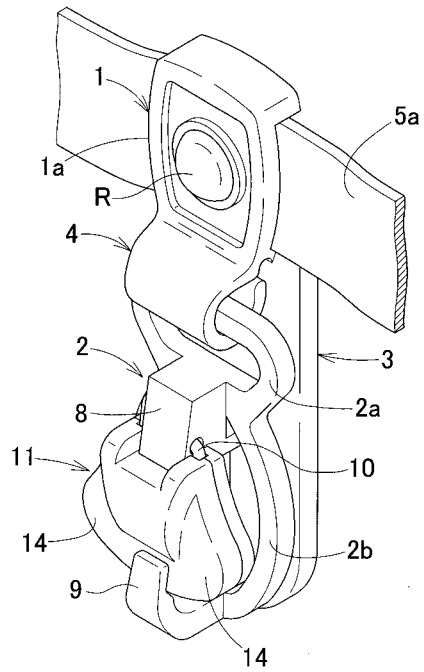
１６ａ 嵌合穴

１６ｂ 嵌合突起

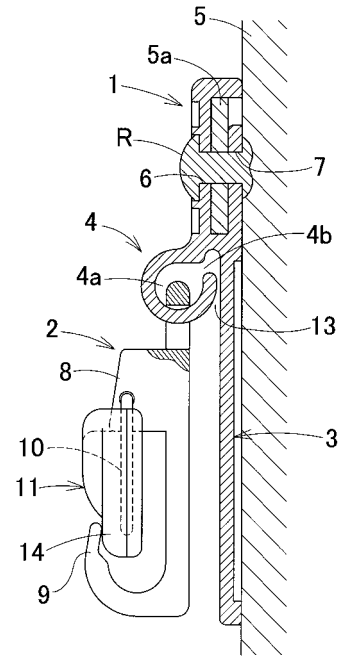
１７ 差込み穴

30

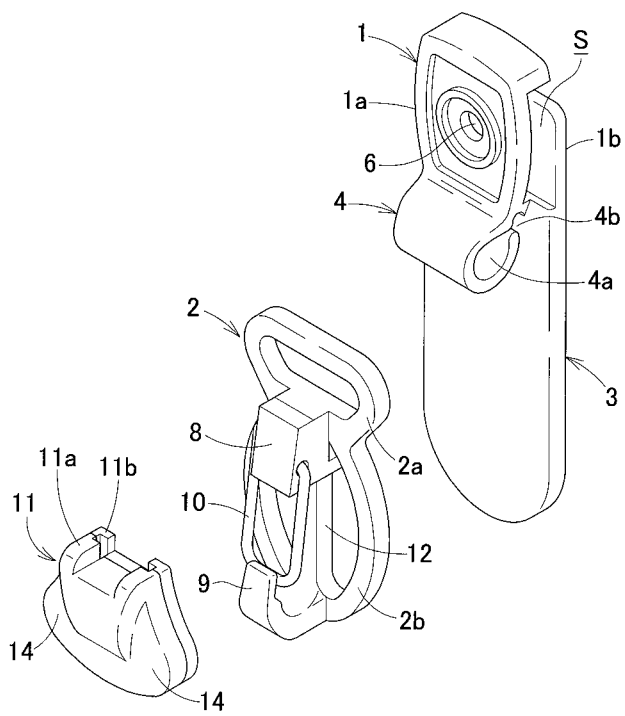
【図 1】



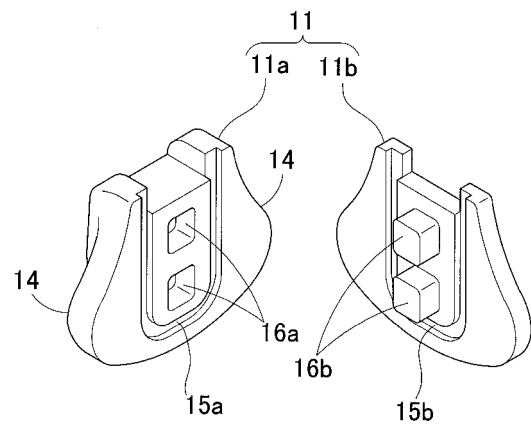
【図 2】



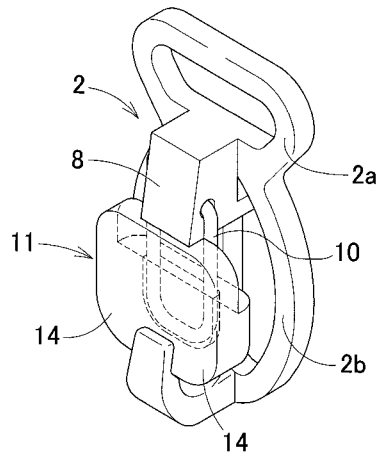
【図 3】



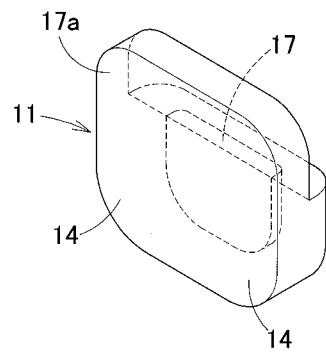
【図 4】



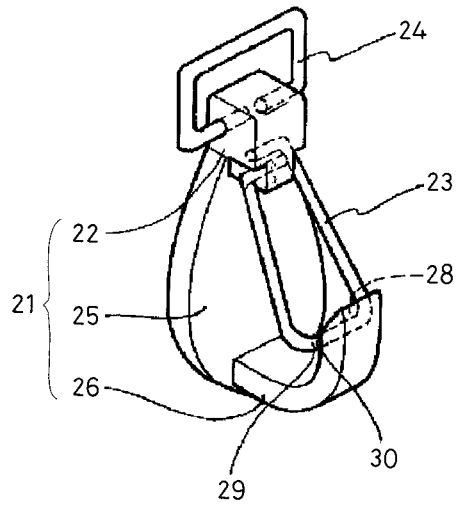
【図 5】



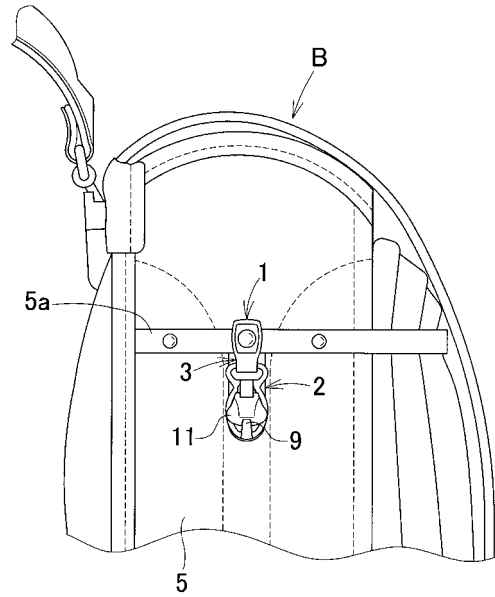
【図 6】



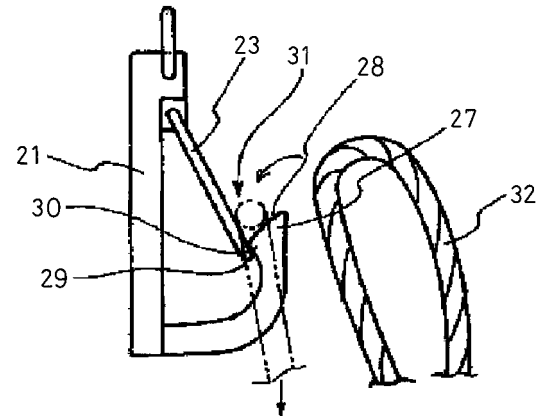
【図 8】



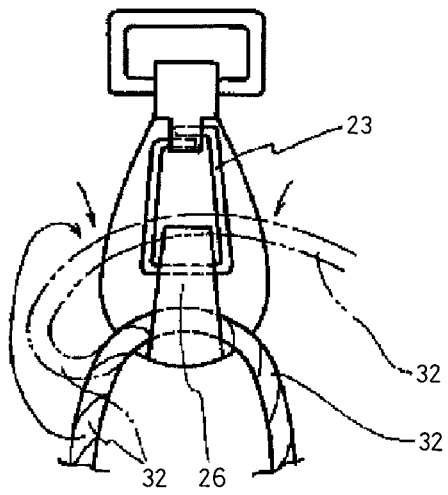
【図 7】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(72)発明者 泉 正義

兵庫県たつの市御津町室津 8 3 6 - 1 株式会社セイバン内

Fターム(参考) 3B045 AA24 LA10